

報恩講をご縁に(その3)

「報恩講」という名称

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第3代覚如上人が、親鸞聖人の33回忌にあわせて、「報恩講私記」を著されたことに由来しています。

一般寺院や本山、別院など全国の浄土真宗のお寺でお勤めされる報恩講に、是非ともお参りし、またご家庭でも報恩講をお勤めいたしましょう。

寺院の「報恩講」

全国の各寺院では、一年に一度お勤めされます。本山の報恩講と同じ期日にお勤めする寺院では「御正忌」、本山の報恩講に先立ち9月から1月頃にかけてお勤めする寺院では、「お引き上げ」や「お取り越し」と呼ぶことが多いようです。

本山本願寺、別院などの「報恩講」

本山本願寺においては、親鸞聖人の祥月命日にお勤めすることから「御正忌報恩講」といい、毎年1月9日から16日までお勤めします。

また、東京の築地本願寺のほか、各地におけるお念仏の中心道場としての別院、教堂が全国にありますが、多くは本山の御正忌報恩講に先立ち、9月から1月上旬頃にかけて「報恩講」をお勤めします。



© 2008 HONGWANJII



来賓祝辞される石原総代

仏前にて、お子さまと共に仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめます。親として生きる出発点であり、赤ちゃんによって与えられた尊い仏縁であります。

重誓偈の読経、初参式についての消息拝読(ご門主さまからのお手紙)、続いて下川仏教婦人会長の挨拶、石原門信徒総代より祝辞を頂きました。焼香をして、最後は仏教讃歌「小さきあこに」を合唱。

また来年、開催しますので、お楽しみに。

住職レター

親鸞聖人のご誕生日である五月二十一日、善教寺本堂にて「初参式」(仏教婦人会主催)をお勤めいたしました。「初参式」とは、お子さまの誕生後、初めて仏さまの前で手を合わせ、お祝いする仏教行事です。